

第56回労働リーダーシップコース開催報告

金属労協組織総務局主査 上口 智子

2025年10月16日から11月1日まで、京都・関西セミナーハウスにおいて、第56回労働リーダーシップコースを開催した。「時代の求める労働組合の役割」を総合テーマに4本の柱に基づき全人格的教育をめざして26名(うち女性3名)が受講し、研鑽に励んだ。

開校式

2025年10月16日(木)、時おり雨が降る中開校式を行った。

篠笛(森田玲・玲月流初代)の奏楽で始まり、式辞として香川孝三校長(神戸大学名誉教授)が、コースの意義を述べるとともに、受講生を激励した。小原克博名誉校長(同志社大学学長)は「日常から離れた非日常のこのセミナーで自分自身が世界観を広げられるだけでなく、他の人にも影響を与えられるよう、内面も養っていただきたい。そして生きる基礎を学ぶ研修となることを期待しています」と激励した。また主催者代表挨拶として金子金属労協議長が挨拶に立ち、労働リーダーシップコースの歴史を踏まえながら「課題意識を持ちつつ楽しむことも大切。ぜひ、充実した17日間を送ってください」と述べた。



受講生宣誓を行う受講生代表

来賓の厚生労働省・原口政策統括

官からは「今、労使交渉の重要性と労働組合の役割がさらに高まっていく。皆さんには労働界のけん引役になっていただくことを期待しています」と激励された。次に関西ブロック・嶋本代表が受講生を激励した。最後に受講生を代表して全矢崎労働組合島田支部執行委員長・前川孝司さんが受講生宣誓を行い、開校式を

終了した。

めざすべき教育

労働リーダーシップコースのめざすべき教育の第1番目は主体的・応答的な人間の育成。2番目は経営者に対応にユーモアをもってイエス・ノーを言える組合指導者の養成。3番目には、全人格的な人間形成。そのため4本の柱に基づいたカリキュラムを実施している。4番目は、リズムのある生活をともにしたオーバーホーリ。2週間半、完全合宿の中で共に語り、共に学び、共に遊ぶという伝統が半世紀以上たつた今も受け継がれている。講義は、労働組合の歴史から始まり、国際労働運動、労働法、労使関係論、労働経済論などの座学に加え、グループディスカッションを取り入れた組合戦略づくりや、アンケート調査に活用できる統計学なども実施して

いる。さらに、坐禅やお茶室体験など日本固有のカルチャーに触れるプログラムや、地の利を活かした「鞍馬山散策」も実施。鞍馬山の自然に触れながら、受講生同士の会話も弾むなど、よいリフレッシュの機会となった。

*4本の柱

- 1 『縦』—自分の立つ歴史的背景を学ぶ
- 2 『点』—自分の立っている場について学ぶ
- 3 『横』—自分の住む世界の広がりについて学ぶ
- 4 『深』—自分の生きる基礎について学ぶ

また、ゼミナールでの討議にも重点を置いている。労働組合・職場の課題を指導教授や受講生同士で討議を重ねながら解決案を探求するゼミナールでは5つのテーマに分かれ4回にわ

たり討議を重ね、最後にゼミナールごとに発表を行い、成果を共有しあった。各ゼミナールのテーマは次のとおり

ゼミナールのテーマ

○香川ゼミ『労働組合と世界』―国境を超える働き手たち―技能実習制度と海外勤務制度の運用状況と今後の方向性について―

○石田ゼミ『労働組合と職場』―労働組合と職場について考える―

○中田ゼミ『労働組合と社会』―仕事と処遇 納得性のある給与水準

○上田ゼミ『労働組合と企業』―誰も取り残さないために―労働組合からできる人材形成とは―

○寺井ゼミ『労働組合と働き方』―現代のワーク・ライフ・バランスが抱える問題を『制度面』と『運用面』から考える



香川ゼミ



石田ゼミ



中田ゼミ



上田ゼミ



寺井ゼミ

モルック&アジャタで朝から白熱

コースでは、受講生が主体的に運営にあたる。朝も、各ゼミから1名選出したラジオ体操委員5名が、朝の体操・散歩またはレクリエーションを企画・運営する。例年、ラジオ体操の後にはゼミナーハウス周辺を散歩するのが定番だが、今年はレクリエーションを中心にを行った。

まずはモルック。各ゼミ2班に分かれて総当たり対抗戦。モルックという木の棒を投げ、数字が書かれたスキップという木のピンを倒し、倒した本数やスキップの数字の合計点が50点になるまで競い合う。ちょうど50点にするためには何点のスキップを倒せばいいのか、頭の中で計算しながら、お互い声を掛け合いながら、朝

から白熱した対戦となった。

次の週は、アジャタ(玉入れ)。たかが玉入れ、されど玉入れ。かごに玉を入れようとしても届かなかつたり、横にそれたり…。時間内に全部入らないグループも。皆、童心に返ってアジャタを楽しんだ。

特別講演

特別講演「経営と人間」では経営者の方に、経営哲学、人生観、次世代への提言などをざっくりばらんに語っていただいている。今回は、矢崎総業株式会社・矢崎陸代表取締役社長から、会社概要、経営を取り巻く環境の変化による多角化への挑戦などについて講演いただいた。また、これまでの労働の歩みや、社是である「世界とともにある企業」「社会から必要とされる企業」の実践事例として、従業員子女

を対象とした国内外での人材育成の取り組みなども紹介された。

討論会と特別討論会

情報交換・討議のプログラムとして受講生だけで行う「討論会」と、金属労協三役と討議する「特別討論会」三役と語ろう」を実施している。討論会では、「組合員が参画したくなる組合イベントとは」「組合員にとって魅力ある職場とは」「コミュニケーションの再構築、人・組織をつなげる取り組みとは」など日ごろ抱えている悩みや課題など、時を忘れて議論した。特別討論会では、討論会委員を中心に決めた「組合と政治のかわり方」「女性役員の登用について」「60歳以降の就労のあり方」「次世代ユニオンリーダーの教育について、求められる資質/能力とは」「25年春闘の振り返りと26年春闘に向けて」など5つのテーマについて、三役と本音で語り合った。受講生からは、「産別のトップと話す機会を得られ、勉強になった」「力強いメッセージをうけて組合活動へのモチベーションが高った」と大好評。次回以降も実施していくことが決定した。



1:はじめに講義を受けてます「労働法」
2:ヤッター! ナイスショット! (モルック)
3:交渉はうまくいってる? (グループ形成ゲーム)
4:坐禅で精神統一中
5:BBQで英気を養いました
6:鞍馬山散策でリフレッシュ!



閉校式 — 思い出を振り返りながら

2025年11月1日(土)朝から出発(たびだち)の集いを行い、受講生一人ひとり、感想を述べ合った。その後、閉校式を行った。式辞として香川孝三校長(神戸大学名誉教授)が「職場に戻ってもリーダーシップを発揮して労働組合活動をリードしていただきたい」と激励し、26名全員に修了証書を授与した。主催者代表挨拶として梅田利也金属労協事務局長が挨拶に立ち「自分自身を見つめなおす機会になったのではないかと、厳しい状況に置かれているが、労働組合の果たすべき役割は大きい。その労働組合を引っ張っていくのはここに一人ひとり。ぜひ、その気概を持って取り組んでいただきたい。また、後に続く後輩にもその思いをつなげていっていただきたい」と述べた。その後、ゼミナール担当講師の石田光男副校長(同志社大学名誉教授)、中田喜文運営委員(京都女子大学教授)、上田眞士運営委員(同志社大学教授)、寺井基博運営委員(同志社大学教授)が修了生を激励した。受講生代表としての答辞では、第56回級長のパナソニックアプライアンス

スユニオンくらしアプライアンス支部副支部執行委員長・河崎未来さんがゼミ毎の2週間半の思い出を紹介するとともに、「ここで出会った皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、強く結ばれた友情を胸に、それぞれの場所ですぐ、自分のできることを考え行動していきます」と決意を述べた。最後に「卒業の歌」を全員で合唱し、閉校式を終えた。

次回、第57回開催へ

労働リーダーシップコース(旧西日本)の修了生は通算1896名、旧東日本コース(第1〜40回)の939名と合わせて、2835名となった。次回、第57回コースは2026年10月15日(木)〜31日(土)の日程で開催する。受講生が充実した17日間を過ごせるよう、プログラムの充実を図りたい。

修了しても友情は続く — フォロアアップ研修

2025年8月8日(金)、昨年に引き続き第54回コースの第2回フォロアアップ研修会が修了生7名参加のもと、小田原で開催された。研修会には金子金属労協議長も出席。所属する組合は違えども、悩みや課題

は同じ。前回以降、1年間の労働組合活動や春闘の取り組みについて情報を共有することにより、次のステップへのヒントを得ることができた。寝食・苦楽を共にした仲間だからこそ本音で話し合える、そんなフォロアアップ研修会を第55回・第56回修了生も計画しているとのこと。良き伝統が後輩へ引き継がれている。

第54回フォロアアップ研修会



実行委員会

各ゼミナールから班長を1名互選し、計5名で実行委員会を編成、実行委員会の中から1名級長を互選する。コースは受講生の主体的な運営を基本とし、実行委員会がその中心となる。実行委員は次のとおり。

- 級長：河崎 未来(パナソニックアプライアンスユニオンくらしアプライアンス支部副支部執行委員長、香川ゼミ班長)
副級長：森山 徹(パナソニックエアコン・コールドチェーンユニオン空質空調支部事務局長、石田ゼミ班長)
岸本 拓己(三菱重工労働組合中央執行委員、中田ゼミ班長)
網倉 亜衣(SUBARU労働組合常任執行委員、上田ゼミ班長)
松本 裕太郎(パナソニックエレクトリックワークス労働組合マーケティング支部書記長、寺井ゼミ班長)

第56回 労働リーダーシップコースに参加して

第56回 労働リーダーシップコース級長

パナソニックアプライアンスユニオン

くらしアプライアンス支部副支部執行委員長 河崎 未来



2025年10月16日、曇り空の下、関西セミナーハウスにて第56回労働リーダーシップコースの開校式が執り行われました。各産別組織から総勢26名の労働組合役員が集まり、11月1日までの17日間にわたり寝食を共にしながら学び合う、極めて貴重な機会となりました。

初日、開校式の後の開校講演の中で、JCM金子議長より『世界的情勢を知る(横軸)こと、歴史を知る(縦軸)ことの重要性』が示され、今後リーダーとして求められる視座の高さを改めて認識しました。緊張感漂う中、級長選出の場面では立候補させていただき、第56回労働リーダーシップコースの級長を務めることになりました。至らぬ点多かったと思いますが、班長やメンバーの協力で支えられ、最後まで役割を果たす事が出来ました。

研修内容は、どれもレベルが高く決して容易ではありませんでしたが、労働組合役員として不可欠な知識・視点を仲間と学び合い・教え合いながら取り組む事が出来ました。研修

プログラムには比叡山登山や鞍馬山散策といった体力を試される場面もあり、自然の中での学びや交流は新たな気づきをもたらし、絆を深める機会となりました。これは、56期生にしか理解できない内容ではありますが、比叡山登山では「守破離」の語源について金子議長から学ぶ場面がありましたが、ちょっとした勘違いから、後に珍事が起こった事で笑いを誘い、「守破離」のおかげで仲間との距離をさらに縮める事が出来たのは、私たちにとって良い思い出になりました。

振り返れば、あつという間の17日間でしたが、一生心に残る濃密な人間関係を築くことが出来ました。改めてJCM事務局・関西セミナーハウススタッフの皆様、そしてこの研修に送り出してくれた組織、ならびに本研修中、苦楽を共にした56期生の仲間に関心より感謝申し上げます。今回の出会いを大切に、今後も組織を牽引できるリーダーをめざし、日々精進してまいります。本当にありがとうございました！

第56回 労働リーダーシップコースを振り返って

労働リーダーシップコース校長

神戸大学・大阪女学院大学名誉教授

香川 孝三



今回は参加者が26名と少なかったせいか、まとまりのある労働リーダーシップコースとなった。朝の体操の時にゲームをやったり、交流会では曲名あてゲームを全員で楽しんだ。例年通り、受講生のコミュニケーション能力の高さが発揮されてスムーズな運営がなされた。ゼミナールも最後の発表会に向けて取り組み、実りある成果を出すことができた。

17日間同じ釜の飯を食べて、受講生同士の交流を深めることができたことが成果をまとめることに寄与している。さらにこのコースの運営を支援していただいた人々の働きにも感謝しなければならない。金属労協は主催者側なので当然ではあるが、東京と京都を何度も往復されて、このコースに心配りをされていたし、関西セミナーハウスの職員の方々、宿舎の清掃担当者、食事を提供してくれる厨房の担当者、お茶の先生、座禅指導のお坊さん、京都らしさを演出してくださった篠笛奏者夫妻、このコース始まって以来、閉校式で最後に歌われてきた「卒業の歌」のピアノ伴奏者、最後の記念撮影をお願いしている写真屋さん等々にはお世話になっている。校長になって10年がたち、あらためてこの場で、お世話になった方々に感謝申し上げます。受講生を送り出している組合からは大量の差し入れがあり、受講生の胃袋を満たしたことでしょう。校長もお裾分けをいただきました。ありがとうございました。とにかく全員事故なく無事に閉校式を迎えることができたことは喜ばしいことです。今後受講生がそれぞれの場で活躍されることを望むばかりです。